

World Food Programme
国連WFP

WFP School Based Programme

「国連WFPの学校給食支援」



子どもたちに栄養と希望を。



World Food
Programme



学校へ——
そして飢えから抜け出す

「国連WFPの学校給食支援」

国連WFPは、飢餓のない世界を目指して活動する国連の食料支援機関です。

その活動の柱の一つとなっているのが「学校給食支援」です。

これは、途上国の学校で栄養価の高い給食を提供するというもので、子どもたちの健全な発育を助けると同時に、就学率・出席率の向上に寄与しています。

学校で無料の給食が出ると、親が子どもたちを積極的に学校に通わせるようになります。

子どもたちも空腹が満たされ、集中して勉強することができます。

子どもたちは教育を受けることで将来への夢や希望を持てるようになり、

教育の普及は社会や国の発展にもつながります。

給食は、特に貧しい家庭の子どもや、戦争や病気などで親を亡くした子どもなどの生活を守る、生活保障の役割も果たしています。

さらに、国連WFPは可能な限り、給食で使う食材を地元で調達する「地産地消」を推進しています。

これは、地域の経済発展や農家の支援にもつながります。

日本の給食は世界の中でも長い歴史を誇り、明治22年に山形県で貧困児童の救済を目的に、おにぎり、焼き魚と漬物が提供されたのが始まりとされています。

その後、戦時中は一時中断しましたが、第二次大戦後の困難な食料事情の中、脱脂粉乳など海外からの援助物資を受けて、日本の学校給食の制度は急速に普及。子どもたちを飢えから救い、健全な発育を後押しし、戦後の復興の一助となりました。

国連WFPは過去60年以上にわたり、世界中の途上国で学校給食を配給してきました。2022年には、59カ国の途上国において、およそ2,000万人の子どもたちに給食を提供しました。

戦後、日本の子どもたちが給食に力をもらったように、いま、国連WFPの給食は世界中の途上国で子どもたちの未来を支えています。

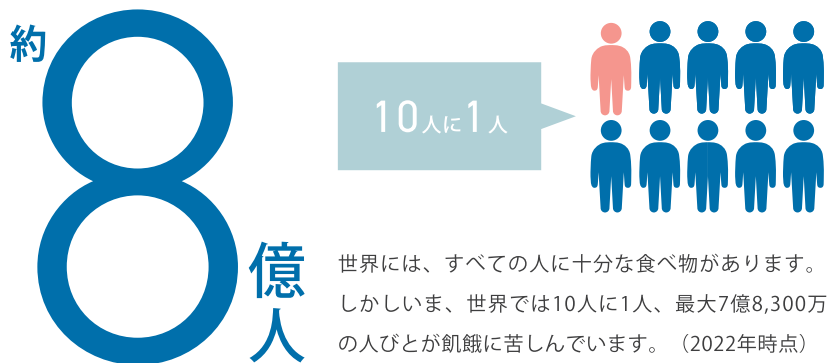
どうぞ皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



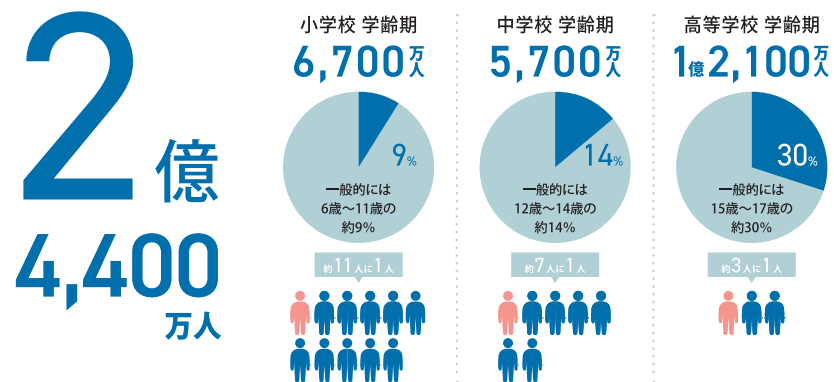
いま、世界では……

この瞬間にも、飢えで命を落とす子どもたちが大勢います

1 飢えに苦しむ人々



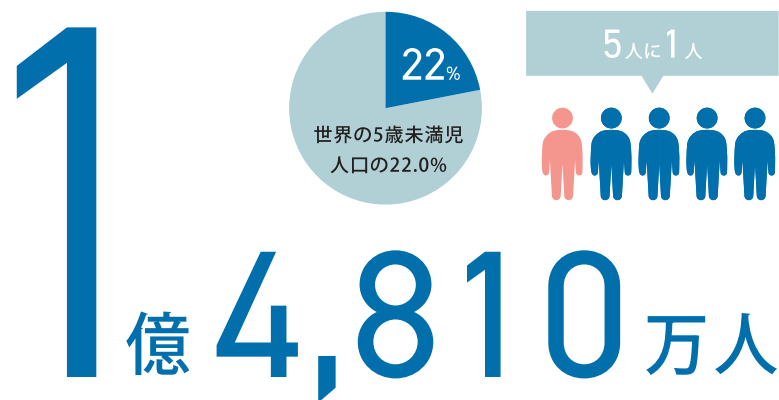
2 学校に通ってない6~17歳の子ども



家庭によっては、子どもが学校に行かずに働いたり、家の手伝いをしたりしなければならないことがあります。また、男の子に比べて女の子の教育の機会が少ない国もあります。学校給食があることで家庭子どもを学校に通わせる動機となり、就学率の向上につながります。

3 発育障害の5歳未満の子ども

(2022年)



【発育障害】

日常的に栄養を十分に取れずに慢性栄養不良に陥り、年齢相応の身長まで成長しない状態です。発育障害の子どもたちは、年齢に対し低身長で、脳の認知能力を十分に発達させることができません。そのことが学齢期の学びや、おとなになってからの労働にも影響を及ぼし、将来的に社会に貢献することも難しくなります。

4 消耗症の5歳未満の子ども

(2022年)



【消耗症】

急性あるいは重度の栄養不足から生じる状態で、十分なカロリーを摂取できておらず、差し迫った死のリスクに直面します。消耗症の子どもたちはひどく痩せ、免疫系が弱っており、緊急の治療ケアを要します。



学校給食支援の形式 ……

子どもたちの生活に添った支援

学校で出す給食

国連WFPの給食は、多くの場合、朝食あるいは昼食です。両方が提供されることもあります。調理場がある学校では温かい食事、ない学校では軽食が提供されます。日本のように何種類もの料理が出ることはありませんが、必要な栄養が摂れるように計算されています。

【メニュー例】

- トウモロコシと大豆の粉を溶かして煮たおかゆ
- 雑穀に煮豆のスープをかけたもの
- 魚缶のカレー
- 栄養強化ビスケット

※一部の先進的な事例では、学校で焼いたパンや野菜炒め、乳製品なども提供されます。



©JAWFP

持ち帰り食料



©WFP/Habib Rahman

「持ち帰り食料」という支援形式もあります。これは、子どもが一定の日数以上出席すれば、家族全員分の食料（米や食用油など）が提供され、家に持ち帰れるというもの。子どもたちが学校へ通うようになったことで生じる家計の損失を補う意味合いがあります。

現金や食料引換券による給食支援

従来は、国連WFPが学校に穀物や豆などの食材を届け、それを調理する形が基本でした。最近では、食料と交換できる券や現金を学校に渡し、学校がそれを使って地元の市場で自ら給食の食材を調達するという取り組みも行われています。

従来方式では腐敗の心配から扱えなかった生鮮食品を取り入れられ、食材の選択肢が増えるなどの利点があります。

学校給食支援の効果 ……

4つの効果

1. 生活保障

災害や経済危機などの緊急事態が起きた際、貧しい家庭や親を亡くした子どもなどは生活がさらに苦しくなり、食べていくことが難しくなります。そんな時、給食は家計を助け、暮らしを守る手段となります。

2. 教育普及

貧しい家庭では、生計を支えるために、子どもが働かなければならないことがあります。しかし、給食が提供されれば、親は働かせるよりも通学させることを選ぶようになります。子どもたちは勉強に集中できるようになり、学習能力も向上します。

戦争などの緊急時には、避難生活などで通学が難しくなるため教育が中断しがちですが、給食は通学の強い動機づけとなり、子どもたちを学校につなぎ止める効果があります。

さらに、女の子に教育を受けさせず、若くして結婚させる慣習が強い地域でも、給食は学校への呼び水となり、男女間の教育格差が是正されます。

【就学率・出席率向上の事例】

給食が提供された学校では、1年間に、就学率がガーナで41%上昇し、出席率はウガンダで6.3%、エチオピアでは3.5%上昇しました（2012年調査）。

3. 栄養状態の改善

途上国では、国連WFPの提供する給食が唯一、定期的に食べられ栄養を摂れる食事となる子どもたちが多くいます。栄養不良の子どもたちは、身体的にも知的にも発達が遅れがちで、給食がなければ一生取り返しのつかないダメージを受けることになりかねません。

必要な栄養を摂ることができるよう、給食にはビタミン・ミネラル等の栄養素を加えたり、給食と同時に虫下し薬を投与したりする場合があります。

4. 地域農業の振興

国連WFPは、可能な限り、給食の食材を地元で調達する「地産地消」を推進しています。これは貧しい小規模農家や食品関連業者に対する支援ともなり、地域の農業や経済の振興につながります。



「学校給食支援」との出会い ① ……

夢に向かって一步一步大切に一生懸命頑張れば、不可能なことはありません——ニムDMA・シェルパさん(ネパール)



17歳でエベレスト登頂に成功したニムDMAさん。
©DaGombu Sherpa

2008年に17歳という若さでエベレスト登頂に成功し、2014年12月には世界7大陸最高峰を踏破したネパール人の女性登山家、ニムDMA・シェルパさん。子どもの頃は、国連WFPの給食を食べて育ちました。

ニムDMAさんは幼い頃、お姉さんについて小学校へ行き始めました。初めは給食が食べられることや友達と遊ぶことが目的で通っていましたが、次第に学ぶことへの意欲も湧き、何か大きなことを成し遂げたいと思うようになったそうです。

「教育は存在すら知らなかった様々な世界への扉を開いてくれます。」とニムDMAさんは言います。



国連WFPが支援するネパール西部の小学校を訪れたニムDMAさん(前列右)
©Mayumi. R



ネパールの子もたちと一緒に。
©Mayumi. R

ネパールの中でも特に農業条件に恵まれない山岳地帯の状況はとても厳しく、しばしば食糧難に見舞われています。貧しい地域では子どもは重要な働き手で、家畜の世話をしたり、幼い弟や妹の面倒をみたりするのは当たり前のことです。女の子は将来嫁いで家を出ていくと考えられており、学校に通わせてもらえないこともしばしばあります。国連WFPは、こうした貧困に苦しむ山岳地域で学校給食プログラムなどの支援を行っています。

ニムDMAさんはこのような厳しい状況を乗り越え、「7サミッツウィメンチーム」という登山隊に参加し、世界7大陸最高峰に挑んできました。女性だけの登山隊で世界7大陸最高峰を目指すのは世界初です。そして、2014年12月、ついに7大陸最高峰を全て踏破しました。

現在、ニムDMAさんは登山家として活躍する一方、これまでに数百の小学校などを訪問し、子どもたちに自らの体験談や教育の大切さを伝えています。

「夢に向かって一步一步大切に一生懸命頑張れば、不可能なことはありません。」

ネパールに帰国したニムDMAさんは、大学で観光学を学び、女性が弱い存在だと思われているネパールにおいて女性たちに登山の魅力を発信し、トレーニングなどを提供、女性登山家を増やすことを新たな目標としていこうとします。また、2015年4月にネパールで発生した大震災の被災者への支援活動にも取り組みました。



南スーダンの少女に生きる力を与える学校給食

——マーリンちゃん(南スーダン)



地域の医療水準の低さから、医療の道を志すマーリンちゃん(左端)
©WFP/Musa Mahadi

南スーダンでは、男子よりも女子の方が教育から排除されやすい状況にあります。紛争、貧困、早婚、10代の妊娠、文化的・宗教的見解などが、少女たちの将来を妨げる教育上の不平等を引き起こす要因となっています。

国連WFPの学校給食支援は、就学率の向上に貢献し、親が子ども

たちを学校に通わせるための不可欠な保護手段です。特に、若い母親を貧困に陥れ、健康を害する可能性のある早婚を防ぐためにも、学校給食は重要な役割を果たします。

「私は医者になりたい」

マーリンは、ジュバにある孤児院と小学校に通う、内気で控えめな16歳の生徒です。文化的に保守的な国では、女の子は教育から遠ざけられがちで、医学を学ぶこともままなりません。内気な彼女の胸の中には、医者になるという確固たる決意が秘められています。

「私の叔母が病気になったとき、診療所に連れて行かれましたが、きちんとした診療が受けられずに亡くなりました」と、マーリンは言います。

「その時、私は医者になるための勉強をして、人びとの命を救おうと決心したのです」

叔母の4人の子どもは孤児となり、現在はマーリンとその家族と一緒に暮らしています。

「母親が適切な診療を受けていれば、私のいとこたちが孤児になることはなかったでしょう」と、彼女は言います。

マーリンの父親は、彼女のキャリア志向にとっても協力的です。「父親が持参金を得るために早く結婚をさせられた女の子を私はたくさん知っています」と彼女は話します。「でも私の父は違います。兄と私を平等にサポートし、学校での私の成績ほめてくれます」

一石二鳥! 地産地消の学校給食支援

最近、国連WFPが提供する学校給食の食材として、地元産の農産物を使う「地産地消」の取り組みが増えています。これには一石二鳥の効果があり、地元で採れた農産物が子どもたちに教育の機会を与え、また地元の農業振興にもつながっています。

エチオピアのハンジャ・チャファ小学校では、学校から半径2〜3キロの地元で農家が育てた作物が給食に使われるようになりました。

地元産のインゲン豆とトウモロコシの粉、植物油、塩からつくられたおかゆが子どもたちのおなかを満たします。

生徒のマルコス君は、「家では薄いパンだけしか食べものがなくておなか为空いてしまうんだ。学校で給食が食べられてとても幸せだよ!」と語ります。

校長は、「生徒の大半は豆を食べたことがなかったので、最初はその味に慣れなかったようですが、今では喜んで食べています。また、給食を通じて、栄養についても学んでいます。」と話しました。

国連WFPは、地元の農業組合から給食用の食材を購入する契約を結んでいます。この農業組合は、2ヘクタール未満の農地しか持たない小規模農家で構成されており、それまでは不利な条件で仲買業者に農作物を売らざるを得ませんでした。国連WFPが適正な値段で継続的に作物を買うことで、地元の農家(特に女性)に収入をもたらし、農業振興を後押ししています。

また、国連WFPの姉妹機関である国連食糧農業機関(FAO)がこれらの農家に農業研修を提供し、能力向上を図っています。

このような地産地消の給食の取り組みは、ホンジュラスやマラウイ、モザンビークなどでも行われ、拡大しています。



国連WFPが支援する農家
©WFP/Ida Girma



国連 WFPの最終目標 ……

国連 WFP支援からの「卒業」

2022年、国連WFPは59カ国で2,000万人の子どもたちに給食を提供しました。しかし、これはゴールではありません。学校給食支援の最終目標は、給食を提供している途上国の政府が国連WFPの給食支援から「卒業」し、自国の制度として独立した給食事業を継続的に運営することです。そのため、給食に関連した枠組みの設計や財源の確保をサポートしたり、給食事業の技術面でのノウハウを伝えたりしています。これまでに、ポルトガルやシンガポール、ブラジルなど、60カ国以上が支援を「卒業」し、現在は自国の給食制度を運営しています。

ラオスは2021年に支援を卒業

国連WFPは、約20年にわたってラオスの子どもたちに学校給食を支援してきましたが、2021年に政府への引き渡しが完了しました。

これまで国連WFPが支援してきた8県915校の学校には、ラオス政府が直接学校給食を届けます。ラオスでは過去20年間で就学率が上昇しており、2018年に実施された分析では1米ドル支出することによって投資対効果は6米ドルであることが分かりました。支援を受けた子どもは支援を受けていない子どもと比べて6カ月長く学校に通うことができおり、学校給食は子どもたちの未来につながっています。



©WFP/Rein Skullerud



©WFP/Rein Skullerud

確かに届ける国連 WFP ……

支援を必要としている人々に確実に届けます

皆さまから寄せられたご寄付は、食料購入および物資の輸送費などにあてられ、支援を必要としている人々のもとへ食料*を確実に届けています。

また、きちんと保管・管理・支給されているかどうかをチェックする「モニタリング」も随時行っています。

*食料そのものではなく、食料引換券や食料購入用の現金を配布することもあります。この場合も、食料の消費状況などを調べ、モニタリングします。





国連WFPの活動 ……

飢餓のない世界を目指して

国連WFPとは

WFP 国連世界食糧計画(国連WFP)は、飢餓のない世界を目指して食料支援を行う国連機関です。イタリア・ローマに本部があり、飢餓と貧困の撲滅を使命として、120以上の国と地域に拠点をもち、年間1億人以上に食料を届けています。



©WFP/Teresa Ha

支援の対象は、災害や紛争の被災者、妊婦や授乳中の母親、栄養不良の子ども、病人など、最も貧しい暮らしを余儀なくされている人々です。約20,000人の職員のうち9割以上は、食料支援が行われる途上国の現場で勤務しています。

食料支援活動には、「緊急食料支援」「栄養支援」「学校給食支援」「農家の自立支援」など、様々なタイプがあります。人々の命と健康を守り、地域社会の自立と発展を支え、最終的には支援を受けている国が支援から「卒業」できるよう支えるのが目標です。

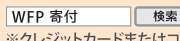

日本では1996年、国連世界食糧計画日本事務所が開設されました。日本政府との連絡業務、企業や各種団体・他の支援組織との協力関係の推進、および広報活動を行っています。


国連WFP協会は、国連世界食糧計画を支援する認定NPO法人であり、日本における民間協力の支援窓口です。募金活動や企業・団体との協力関係の推進、広報活動を通して日本における支援の輪を広げています。1999年に設立され、2005年に認定NPO法人として認められており、ご寄付は寄付金控除の対象となります。

国連WFPとは、国連機関であるWFP 国連世界食糧計画と、それを支援する認定NPO法人である国連WFP協会の二団体の総称です。

ご寄付の方法

国連WFPへのご寄付は、以下の方法があります。

	手数料 無料	領収書 自動発行	
▶ 金融機関から ▶ 三井住友銀行または三菱UFJ銀行の口座から	○	×	● 三井住友銀行 横浜支店 (店番588) 口座種類・番号：普通 7478959 口座名：トクビ コクレンWFPキヨウカイ ● 三菱UFJ銀行 本店 (店番001) 口座種類・番号：普通 0887110 口座名：トクビ コクレンWFPキヨウカイ 同銀行の口座から上記の指定口座にお振込みください。 ※領収書発行・使途指定をご希望の方は、フリーダイヤル(0120-496-819)までご連絡ください。
▶ 上記以外の銀行から	×	×	ご利用の銀行から上記の指定口座どちらかに振込みください。 ※領収書発行・使途指定をご希望の方は、フリーダイヤル(0120-496-819)までご連絡ください。
▶ 郵便局、ゆうちょ銀行から	×	○	● お振り込み先 口座番号：00290-8-37418 加入者名：国連WFP協会 ※払込取扱票をご希望の方は、フリーダイヤル(0120-496-819)までご連絡ください。
▶ クレジットカードで	○	○	● [今回の寄付] 寄付申込サイト https://www.jawfp.org/oneshot  ※クレジットカードまたはコンビニが選択できます。 
▶ コンビニで	○	○	

▶ 金融機関から	○	○	● [毎月の寄付] お申込方法 https://ja.wfp.org/donate_monthly QRコード「オンラインフォーム」からお申込みください。 ※クレジットカードが選択できます。 
▶ クレジットカードで	○	○	

金融機関のお申込書をご希望の方は、QRコード「資料請求」またはフリーダイヤル(0120-496-819)までご連絡ください。










▶ お電話から	● [今回の寄付・毎月の寄付] クレジットカードのみ フリーダイヤル 0120-496-819 (通話料無料) 受付時間/9:00~18:00 (年始を除く年中無休)		
----------------	---	--	--

国連WFPローマ本部との取り決めにより、寄付(企業・団体寄付及び個人寄付)のうち75%以上は途上国での支援活動のためローマ本部へ送金しており、残り25%(上限)は国連WFP協会が国内で行う募金活動、広報宣伝活動、管理費等の運営経費に活用しています。

ご寄付は、寄付金控除など税制上の優遇措置が受けられます。

国連WFP協会が発行する領収書を添付して確定申告を行っていただくことにより、寄付金控除を受けることができます。詳しくはお近くの税務署にご相談ください。

● 世界の飢餓や国連WFPの活動をもっと知るには ……

● メールマガジン  https://ja.wfp.org/ 	● ShareTheMeal (スマホアプリ)  https://sharethemeal.org/ 		
● Facebook  @WFP.JP	● Twitter  @WFP_JP	● Instagram  @wfp_japanoffice @jawfp_official	● LINE  友達追加コード 

● お問い合わせ・資料請求は ……

国連WFP **0120-496-819** (通話料無料)
 受付時間/9:00~18:00 (年始を除く年中無休)
 Eメール/ info@jawfp.org

子どもたちに栄養と希望を。 レッドカップキャンペーン

今、世界では飢餓で多くの幼い命が失われていること、
食べるために働いて学校に行けない子どもたちがまだいること、
この状況を多くの人に伝え、一人でも多くの子どもたちに
学校給食を届けるためのキャンペーンです。

目印は、国連WFPが給食を入れる容器として使っている、赤いカップ。

赤いカップは、子どもたちの未来への希望のシンボル。

このカップを目印にして、皆さまに学校給食支援へ

ご協力いただく機会をご用意しています。

皆さまの力で、給食が届く、世界がより良くなっていく、

それがレッドカップキャンペーンの願いです。

詳しくは、レッドカップキャンペーンページで

www.jawfp.org/redcup



飢餓から救う。
未来を救う。

WFP
国連世界食糧計画

●お問い合わせ：国連WFP

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6F

Eメール／info@jawfp.org

WFP

検索

ショクリョウ ハイキョウ

(通話料無料)

0120-496-819

受付時間／9:00—18:00 (年始を除く年中無休)

2023年7月改訂